

必ず入れて欲しいものを吹き出しで示しています。  
A4で1枚にまとめましょう

## 2017年度商学部ゼミナール3報告

日付

報告箇所

報告者

2017/04/20

報告者:中瀬哲史

報告箇所: 溪内謙(1995), 『現代史を学ぶ』岩波新書「はじめに」「おわりに」

報告者にとって、当該箇所を読んで議論したいと思った点

### 1. 報告箇所の論点

現代史以外の歴史は不要か

本報告の理解にとって重要だと考えられるものを列挙する

### 2. 報告箇所の紹介

#### 2.1 キーワード(5つ程度)

現代史, 歴史家, 静止画像的な枠組, 歴史的方法, 不透明感・不安感

なぜ、論点として取り上げたのかが、明快になるようにまとめること。事細かに内容紹介する必要はない。

#### 2.2 内容紹介

- 「歴史において」問う歴史家が、「歴史について」考える時代(1頁)

現代史の課題…「私たちが生きている『今』をその起源にまでさかのぼって、成り立ちとそれからの変化とを跡づけることで、これからの行動のための一般的な指針を導き出すこと」  
(2頁)

= 歴史的方法

≠ 編年史; 年表にあるように、事項を書き連ねたもの

→ 現在の認識と未来の洞察とにとって意味をもつとみなす過去が重要

…著者にとってのソ連史研究は「削除」対象

- 著者の専門研究の領域について

著者の考える冷戦期の2つのソ連史(正統主義史観と全体主義的歴史モデル)(7頁)

⇒ どちらも、政治権力をも含めた歴史的变化を理論化できない「静止画像的な枠組」

◎ 分析することなく、最初から「結論」をもった議論

⇒ プロセスを追跡する歴史的方法こそが重要

⇒ 不透明感, 不安感のつよい現代の分析ツールとして歴史的方法に期待

…いわば、同時進行の出来事を「歴史として」「歴史的起源にさかのぼり、そこからの変容の過程を跡づける」ように分析し、叙述する

⇒ 「どこへ」という疑問, と「なぜ」という過去に向けての問いの関連

※現在の日本は、一応は、好景気, しかし「あいまいで不透明な時代」, 歴史的方法は有効。

- 歴史を学ぶ意義

「ひとを賢明にする」「過去の精神的創造にたいする謙虚な態度をつちかう」

※それでは、現代史以外の歴史は意味がないのか, 不要なのか

最後に、論点を確認